

青森県経済統計報告

令和3年11月2日

企画政策部統計分析課

1 青森県の推計人口（令和3年10月1日現在）…………… 1

県人口 1,214,036人（対前月746人減少）	
自然動態	958人減少（出生者数 564人、死亡者数 1,522人）
社会動態	212人増加（転入者数 1,423人、転出者数 1,211人）
※県人口は平成27年国勢調査人口（確定値 総務省統計局 平成28年10月26日）を基礎に推計したもの。	

2 本県の経済動向（令和3年8月・9月の経済指標を中心として）

（1）経済概況

本県経済は、新型コロナウイルス感染症の影響から依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さがみられる。

なお、直近の景況感（青森県景気ウォッチャー調査・令和3年10月期）をみると、前期から上昇したものの、景気の横ばいを示す50を15期連続で下回った。

（2）主要経済指標の動向

- (2-1) 生産動向 ・令和3年8月の**青森県鉱工業生産指数**（平成27年＝100）は、季節調整済指数が100.8で、前月比2.3%の低下となり、2カ月連続で前月を下回った。また、原指数は94.0で、前年同月比4.6%の上昇となり、6カ月連続で前年同月を上回った。 … 2
- (2-2) 雇用労働 ・令和3年8月の**定期給与**は223,533円で前年同月比1.2%増となった。 … 3
・**総実労働時間**は144.8時間で前年同月比2.0%増、**所定外労働時間**は8.8時間で前年同月比2.3%減となった。
・令和3年9月の**有効求人倍率**（季節調整値）は1.11倍で、前月を0.01ポイント下回ったものの、6カ月連続で1倍を上回った。
- (2-3) 物 価 令和3年9月の**青森市消費者物価指数**（令和2年＝100）は、総合指数が100.3となり、前月比0.3%の上昇、前年同月比0.1%の上昇となった。また、生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は99.1となり、前月比0.1%の上昇、前年同月比1.1%の下落となった。 … 5
- (2-4) 個人消費 ・令和3年9月の**百貨店・スーパー販売額**は、138億円で全店舗ベースが前年同月比1.5%減となり、2カ月連続で前年同月を下回った。また、既存店ベースでは前年同月比2.3%減となり、4カ月連続で前年同月を下回った。 … 6
・令和3年9月の軽乗用車を含めた**乗用車新車登録・届出台数**は2,667台で、前年同月比32.5%減となり、4カ月連続で前年同月を下回った。
・令和3年9月の主な観光施設の**観光入込客数**は、29万2千人で前年同月比48.6%減となり、7カ月ぶりに前年同月を下回った。また、主な宿泊施設の**宿泊者数**は、12万8千人で前年同月比25.6%減となり、7カ月ぶりに前年同月を下回った。
- (2-5) 建 設 ・令和3年9月の**新設住宅着工戸数**は504戸で、前年同月比5.2%増となり、2カ月ぶりに前年同月を上回った。 … 8
・令和3年9月の**公共工事請負金額**は223億3,400万円で前年同月比5.6%減となり、2カ月ぶりに前年同月を下回った。
- (2-6) 企業倒産 令和3年9月の**企業倒産**は、件数は1件で前年同月と同数となった。負債総額は2,500万円で前年同月比56.3%増となった。 … 8

（3）景気動向指数C I（令和3年8月分）…………… 9

先行指数	136.1（前月を1.5ポイント下回り、2カ月連続で下降した）
一致指数	82.2（前月を6.5ポイント下回り、6カ月ぶりに下降した）
遅行指数	94.8（前月を3.6ポイント上回り、3カ月ぶりに上昇した）

（4）青森県景気ウォッチャー調査（令和3年10月期）…………… 10

3カ月前と比べた景気の現状判断D I	…44.5（前期比2.2ポイント上昇、15期連続で50を下回る）
3カ月後の景気の先行き判断D I	…63.3（現状判断D Iと比べ18.8ポイント上昇、50を上回る）

1 青森県の推計人口（令和3年10月1日現在）

【概 況】

令和3年10月1日現在の本県推計人口は、1, 214, 036人で、前月に比べ746人の減少となった。

○自然動態

出生者数が564人、死亡者数が1, 522人で、958人の減少となった。

○社会動態

転入者数が1, 423人、転出者数が1, 211人で、212人の増加となった。

総人口の推移

（単位：人）

	総数	男	女	対前月 増減率	増減数	自然 増減数	出生者数	死亡者数	社会 増減数	県外からの 転入者数	県外への 転出者数
昭 45.10. 1	1,427,520	685,477	742,043	-	10,929	-	-	-	-	-	-
50.10. 1	1,468,646	707,232	761,414	-	41,126	-	-	-	-	-	-
55.10. 1	1,523,907	735,444	788,463	-	55,261	-	-	-	-	-	-
60.10. 1	1,524,448	731,439	793,009	-	541	-	-	-	-	-	-
平 2.10. 1	1,482,873	704,758	778,115	-	-41,575	-	-	-	-	-	-
7.10. 1	1,481,663	704,189	777,474	-	-1,210	-	-	-	-	-	-
12.10. 1	1,475,728	702,573	773,155	-	-5,935	-	-	-	-	-	-
17.10. 1	1,436,657	679,077	757,580	-	-39,071	-	-	-	-	-	-
22.10. 1	1,373,339	646,141	727,198	-	-63,318	-	-	-	-	-	-
27.10. 1	1,308,265	614,694	693,571	-	-65,074	-	-	-	-	-	-
令2. 10. 1	1,230,715	578,175	652,540	-0.069%	-846	-862	547	1,409	16	1,292	1,276
令2. 11. 1	1,229,854	577,808	652,046	-0.070%	-861	-939	587	1,526	78	1,258	1,180
令2. 12. 1	1,228,730	577,273	651,457	-0.091%	-1,124	-1,057	536	1,593	-67	926	993
令3. 1. 1	1,227,653	576,763	650,890	-0.088%	-1,077	-1,054	513	1,567	-23	1,008	1,031
令3. 2. 1	1,226,343	576,092	650,251	-0.107%	-1,310	-1,294	487	1,781	-16	1,027	1,043
令3. 3. 1	1,225,034	575,390	649,644	-0.107%	-1,309	-1,084	453	1,537	-225	1,023	1,248
令3. 4. 1	1,219,435	572,505	646,930	-0.457%	-5,599	-1,080	584	1,664	-4,519	3,583	8,102
令3. 5. 1	1,218,783	572,324	646,459	-0.053%	-652	-928	604	1,532	276	2,861	2,585
令3. 6. 1	1,217,512	571,697	645,815	-0.104%	-1,271	-1,010	540	1,550	-261	884	1,145
令3. 7. 1	1,216,448	571,209	645,239	-0.087%	-1,064	-900	546	1,446	-164	1,015	1,179
令3. 8. 1	1,215,680	570,985	644,695	-0.063%	-768	-910	554	1,464	142	1,460	1,318
令3. 9. 1	1,214,782	570,548	644,234	-0.074%	-898	-963	621	1,584	65	1,322	1,257
令3. 10. 1	1,214,036	570,304	643,732	-0.061%	-746	-958	564	1,522	212	1,423	1,211

9月中の人口動態の推移

（単位：人）

年月		H23.9	24.9	25.9	26.9	27.9	28.9	29.9	30.9	R元.9	2.9	3.9
自然 動態	出生者数	781	736	750	831	736	742	721	642	569	547	564
	死亡者数	1,224	1,181	1,273	1,434	1,328	1,336	1,286	1,351	1,416	1,409	1,522
	自然増減数	-443	-445	-523	-603	-592	-594	-565	-709	-847	-862	-958
社会 動態	県外からの 転入者数	1,474	1,382	1,563	1,528	1,521	1,478	1,578	1,210	1,592	1,292	1,423
	県外への 転出者数	1,584	1,491	1,498	1,491	1,622	1,412	1,429	1,403	1,331	1,276	1,211
	社会増減数	-110	-109	65	37	-101	66	149	-193	261	16	212
増減数計		-553	-554	-458	-566	-693	-528	-416	-902	-586	-846	-746

※1 昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22、27年は国勢調査人口（確定値）。

※2 平成27年11月1日以降の人口は、平成27年国勢調査人口（確定値 総務省統計局 平成28年10月26日）を基礎に推計している。

※3 増減数は、昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22、27年が各々の前回国勢調査、その他が前月推計人口に対するものである。

※4 算出方法

県の推計人口＝前月の人口＋自然増減数（出生者数－死亡者数）＋社会増減数（県外からの転入者数－県外への転出者数）

2 本県の経済動向

(2) 主要経済指標の動向

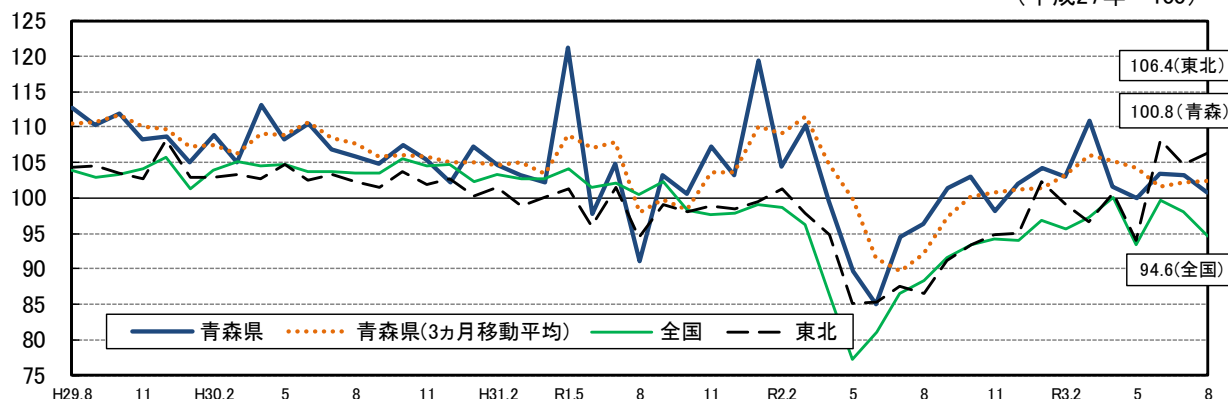
(2-1) 生産動向

令和3年8月の青森県鉱工業生産指数（平成27年＝100）は、季節調整済指数が100.8で、前月比2.3%の低下となり、2ヵ月連続で前月を下回った。また、原指数は94.0で、前年同月比4.6%の上昇となり、6ヵ月連続で前年同月を上回った。

季節調整済指数で前月からの動きをみると、電子部品・デバイス工業、電気機械工業、化学工業等が上昇に寄与した一方、生産用機械工業、非鉄金属工業、繊維工業等が低下し、鉱工業全体では2.3%の低下となった。

青森県・全国・東北の鉱工業生産指数推移（季節調整済指数）

（平成27年＝100）



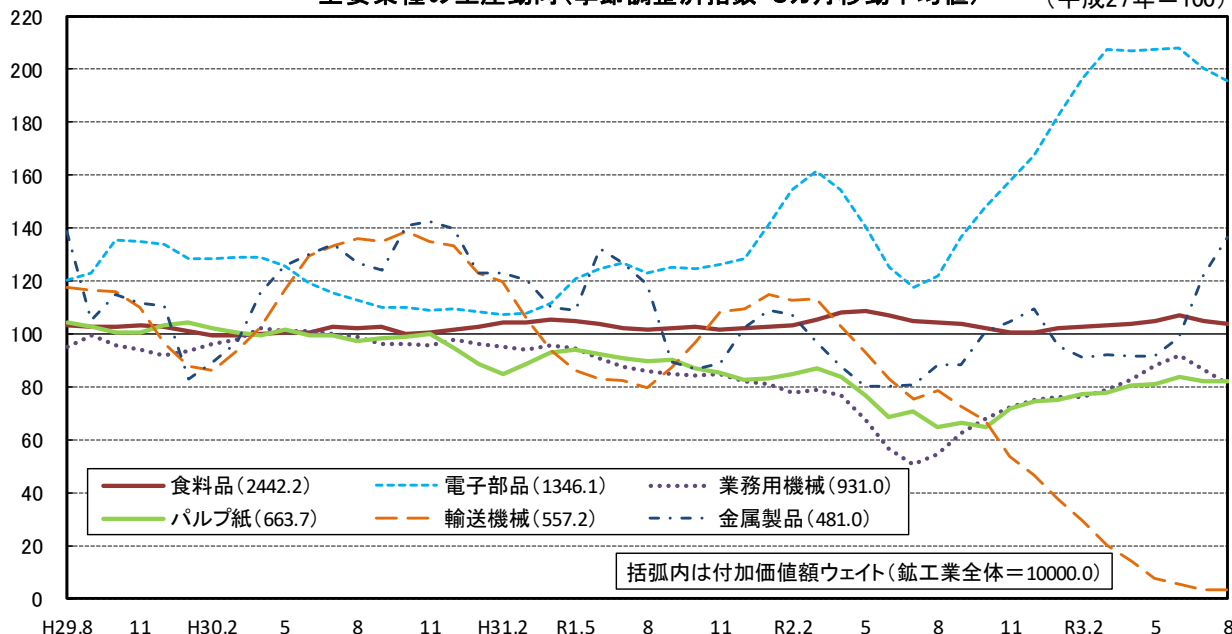
◎業種別動向（前月比） 鉱工業全体 -2.3%

プラス			マイナス		
業種	前月比(%)	寄与率(%)	業種	前月比(%)	寄与率(%)
電子部品・デバイス工業	9.6	232.3	生産用機械工業	-76.8	-481.2
電気機械工業	30.4	160.4	非鉄金属工業	-4.4	-19.3
化学工業	43.2	111.3	繊維工業	-6.9	-17.4
業務用機械工業	5.5	36.4	情報通信機械工業	-20.0	-10.5
金属製品工業	4.7	30.9	はん用機械工業	-10.2	-8.2

※寄与率とは、総合指数の上昇（低下）に対する、業種ごとの影響度を構成比で示したものであり、ポイント差とウェイトとの総合的な大きさで決まる。

主要業種の生産動向（季節調整済指数・3ヵ月移動平均値）

（平成27年＝100）



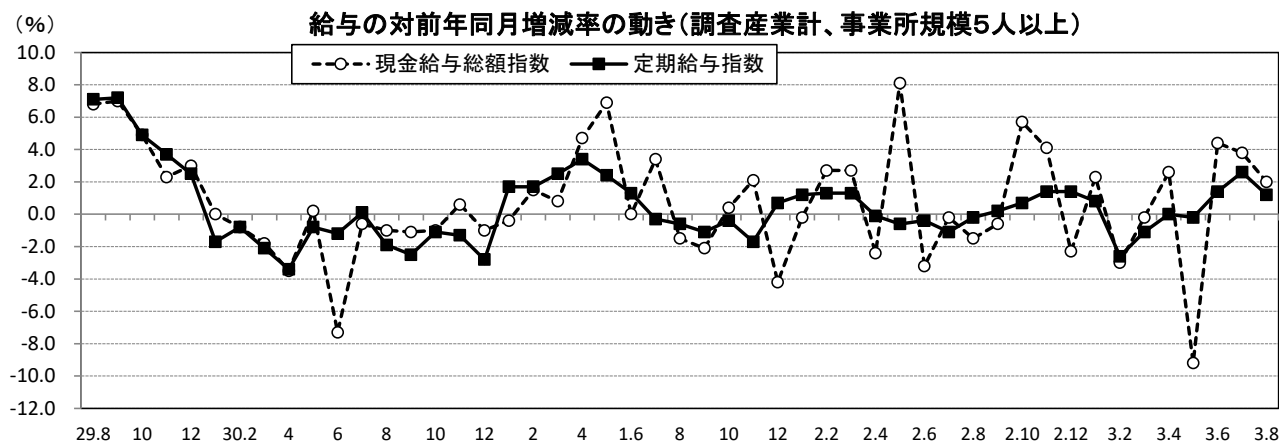
資料：県統計分析課「青森県鉱工業生産指数（速報）」

(2-2) 雇用労働

(2-2-1) 給与・労働時間（毎月勤労統計調査結果）

令和3年8月の定期給与は223,533円で、定期給与指数（平成27年＝100）では103.5となり、前年同月比1.2%増と3カ月連続の増（現金給与総額240,249円、現金給与総額指数95.8、前年同月比2.0%増）となった。また、実額で比較した定期給与の全国対比は85.4となった。

総実労働時間は144.8時間で、総実労働時間指数は93.7となり、前年同月比2.0%増と6カ月連続の増となった。このうち、所定外労働時間は8.8時間で、所定外労働時間指数は76.5となり、前年同月比2.3%減と2カ月連続の減となった。



資料：県統計分析課「毎月勤労統計調査結果（速報）」

給与及び労働時間の全国との比較（調査産業計、事業所規模5人以上）

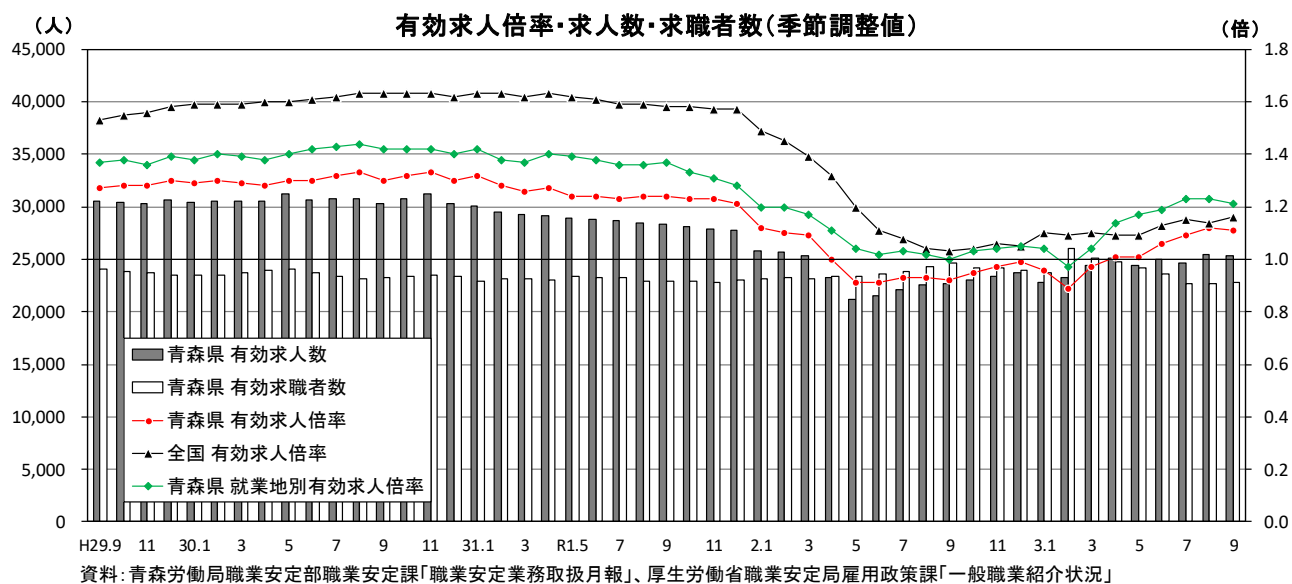
	実 数		指数（H27=100）		対前年同月増減率	
	青森県	全 国	青森県	全 国	青森県	全 国
現金給与総額	240,249 円	274,671 円	95.8	87.1	2.0 %	0.6 %
定期給与	223,533 円	261,772 円	103.5	100.5	1.2 %	0.5 %
特別給与	16,716 円	12,899 円	—	—	—	3.0 %
総実労働時間	144.8 時間	129.7 時間	93.7	89.8	2.0 %	0.7 %
所定内労働時間	136.0 時間	120.6 時間	95.0	90.3	2.2 %	0.2 %
所定外労働時間	8.8 時間	9.1 時間	76.5	82.7	-2.3 %	7.0 %

- (注) 1. 「定期給与」とは、あらかじめ定められている支給条件、算定方法によって支給される給与のことで、超過労働給与（所定の労働時間をこえる労働、休日労働、深夜労働に対して支給される給与）を含みます。
2. 「特別給与」とは、給与の差額追給額（ベースアップ分）、3か月をこえる期間単位で支給される住宅手当や通勤手当、賞与（ボーナス）等のことです。
3. 「所定内労働時間」とは、正規の始業時刻と終業時刻との間から休憩時間を差し引いた労働時間のことです。
4. 「所定外労働時間」とは、早出、残業、休日出勤等の労働時間のことです。
5. 全国の数値については、平成30年11月確報から、平成24年以降において東京都の「500人以上規模の事業所」についても再集計した値（再集計値）に変更しており、従来の公表値とは接続しないことにご注意ください。また令和元年6月分速報から「500人以上規模の事業所」について全数調査による値に変更していることにご注意ください。

資料：県統計分析課「毎月勤労統計調査結果（速報）」

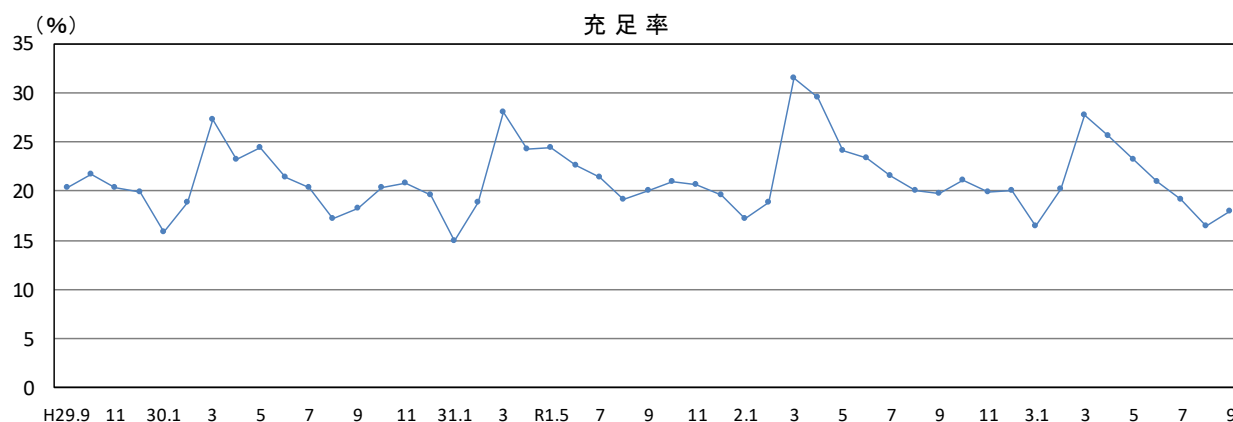
(2-2-2) 有効求人倍率

令和3年9月の有効求人倍率（季節調整値）は1.11倍で、前月を0.01ポイント下回ったものの、6カ月連続で1倍を上回った。就業地別有効求人倍率は1.21倍で、前月を0.02ポイント下回った。



(参考) 充足率（新規学卒者を除きパートタイムを含む）

令和3年9月の充足率は18.0%で、前年同月を1.7ポイント下回った。



(2-3) 物価

令和3年9月の青森市消費者物価指数(令和2年=100)は、総合指数が100.3となり、前月と比べ0.3%の上昇、前年同月と比べ0.1%の上昇となった。

生鮮食品を除く総合指数は100.1となり、前月と比べ0.2%の上昇、前年同月と比べ0.1%の上昇となった。

生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は99.1となり、前月と比べ0.1%の上昇、前年同月と比べ1.1%の下落となった。

総合指数が前月と比べ0.3%の上昇となった内訳を寄与度でみると、食料、被服及び履物などの上昇が要因となっている。

総合指数が前年同月と比べ0.1%の上昇となった内訳を寄与度でみると、光熱・水道、教養娯楽などの上昇が要因となっている。

図1 総合指数の動き

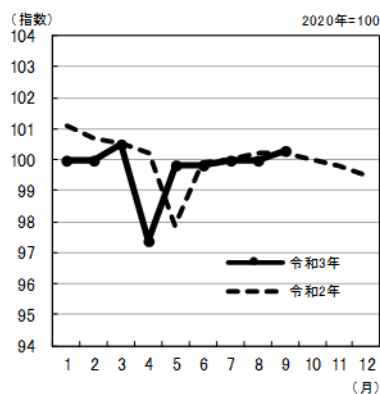


図2 生鮮食品を除く総合指数の動き

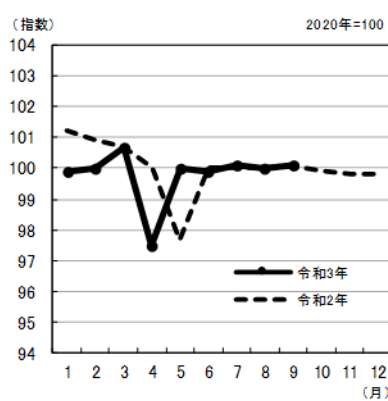
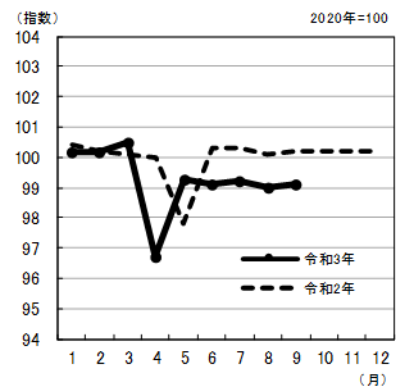


図3 生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数の動き



10大費目指数の動き

(2020年=100)

生活消費支出の細目					消費生活指数(2010年=100)													
	総 合	生鮮食品を除く総合	生鮮食品及びエネルギーを除く総合	食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合	食 料	生 食	鮮 品	住 居	光 熱 水	道 路	家 具 家 用	被 服 及 履 物	保 健 医 療	健 康	交 通 通 信	教 育	教 養 娯 楽	雑 費
当月指数	100.3	100.1	99.1	98.7	100.9	104.1	100.5	107.8	100.1	100.5	99.4	92.8	99.1	102.1	101.1			
前月比 (%)	0.3	0.2	0.1	0.2	0.6	3.9	0.1	0.6	▲ 0.6	4.9	0.0	▲ 0.2	0.0	▲ 0.3	0.2			
寄与度	—	0.14	0.09	0.10	0.16	0.18	0.01	0.06	▲ 0.02	0.14	0.00	▲ 0.02	0.00	▲ 0.02	0.01			
前年同月比 (%)	0.1	0.1	▲ 1.1	▲ 1.6	0.5	1.8	0.4	6.8	0.4	▲ 0.9	▲ 0.6	▲ 7.1	0.1	2.6	0.9			
寄与度	—	0.06	▲ 0.98	▲ 1.02	0.13	0.09	0.08	0.68	0.02	▲ 0.03	▲ 0.03	▲ 0.98	0.00	0.21	0.05			

資料: 県統計分析課「消費者物価指数 月報」

※ **寄与度**とは、ある費目の指数の変動が、総合指数の変化率のうち何ポイント寄与したかを示したものであり、全費目の寄与度を合計すると、原則として、総合指数の前月比及び前年同月比(%)の値に一致する。

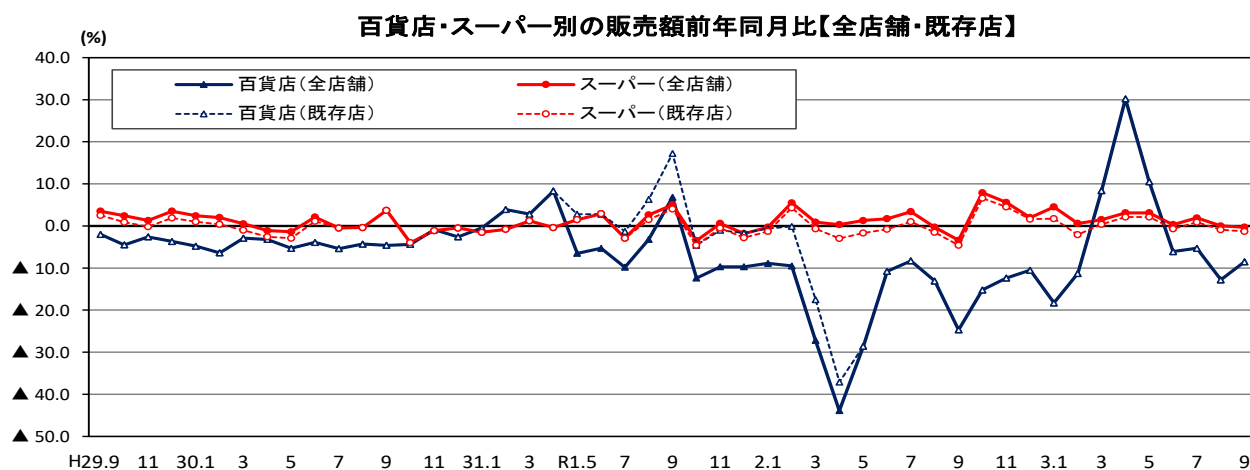
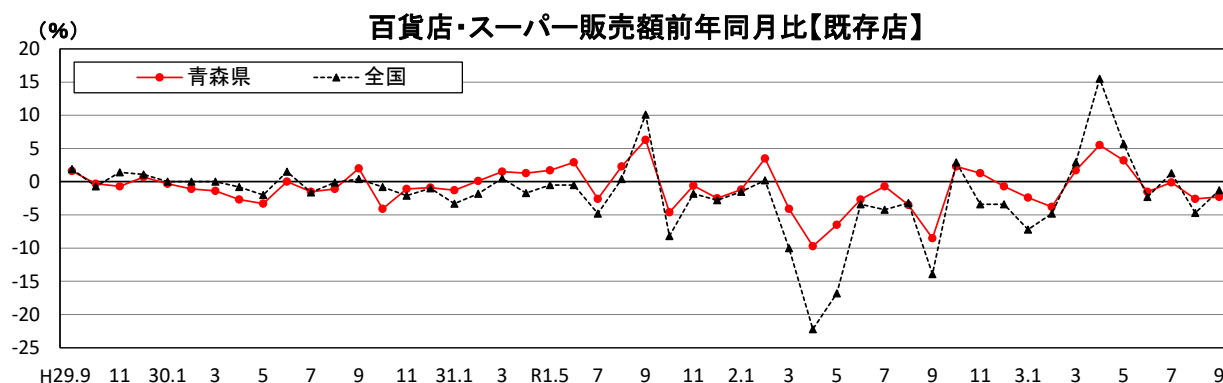
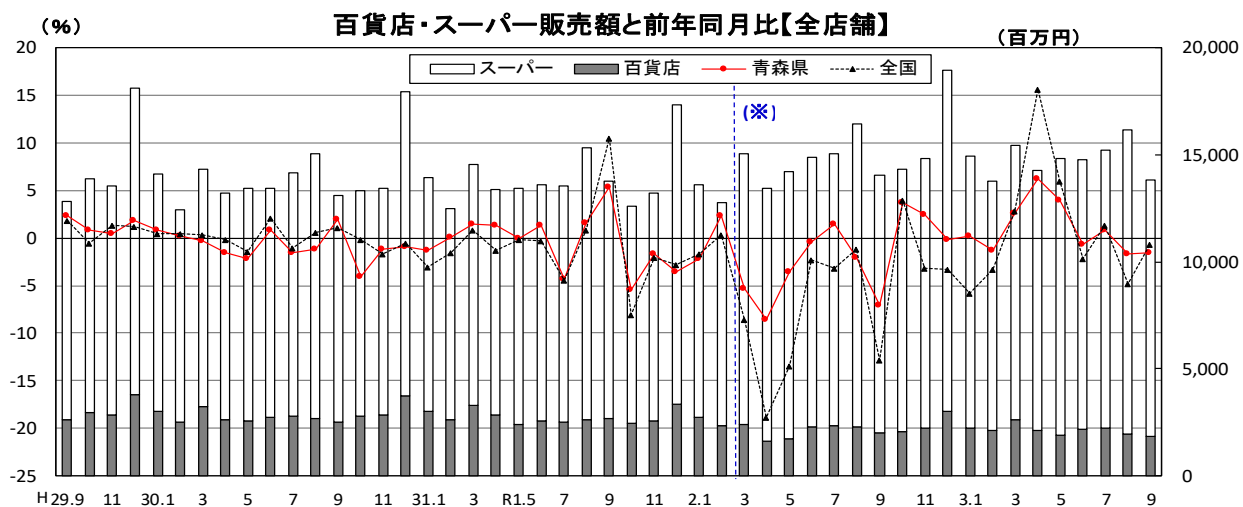
前月比、前年同月比及び寄与度は、端数処理前の指数値を用いて計算しているため、公表された指数値を用いて計算した値とは一致しない場合がある。

本資料は総務省統計局「小売物価統計調査」の調査票情報を独自集計したものである。

(2-4) 個人消費

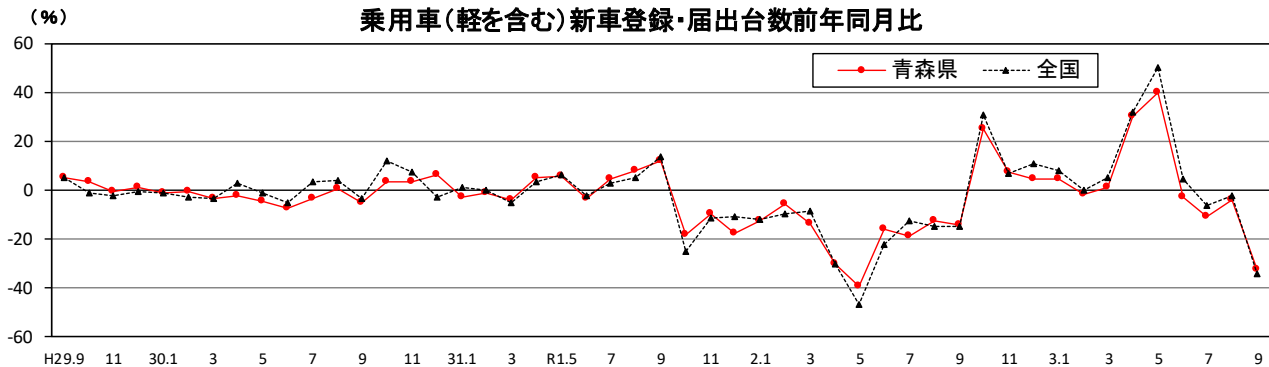
(2-4-1) 百貨店・スーパー販売額

令和3年9月の百貨店・スーパー販売額は、138億円で全店舗ベースが前年同月比1.5%減(前々年同月比8.5%減)となり、2カ月連続で前年同月を下回った。また、既存店ベースでは前年同月比2.3%減となり、4カ月連続で前年同月を下回った。



(2-4-2) 乗用車新車登録・届出台数

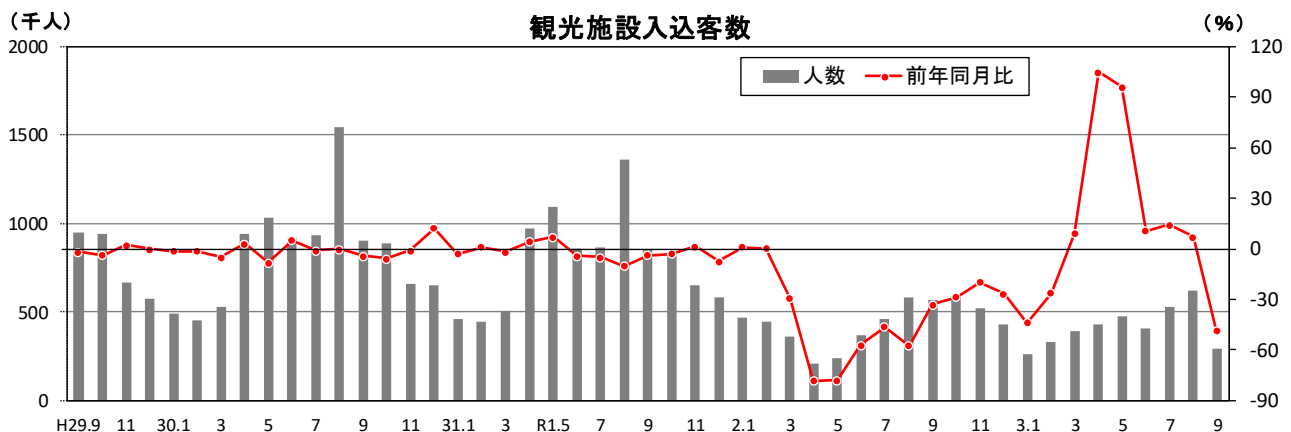
令和3年9月の軽乗用車を含めた乗用車新車登録・届出台数は2,667台で、全車種が減少したことにより、前年同月比32.5%減(前々年同月比42.2%減)となり、4カ月連続で前年同月を下回った。



資料: 日本自動車販売協会連合会青森県支部「自動車登録状況 新車月報」、同連合会「自動車統計データ」

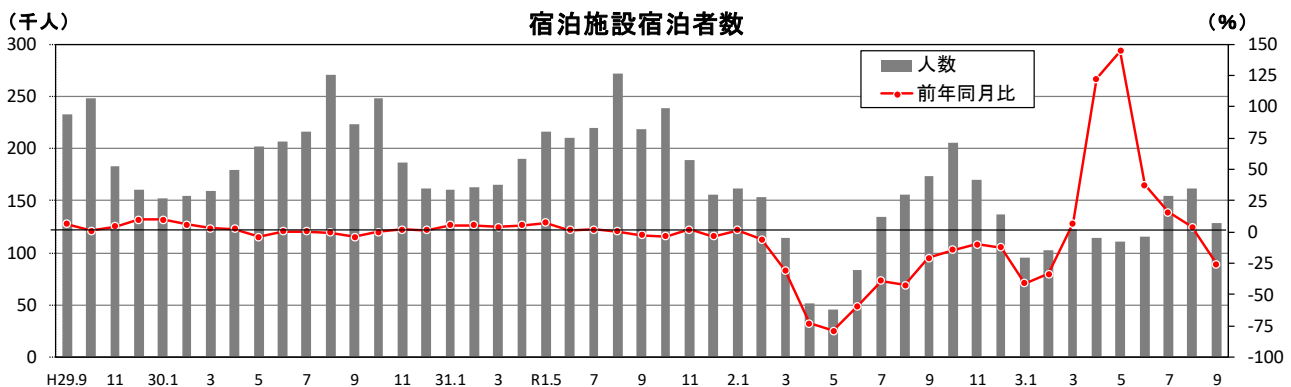
(2-4-3) 観光入込客数・宿泊者数

令和3年9月の主な観光施設の観光入込客数は、29万2千人で前年同月比48.6%減(前々年同月比65.7%減)となり、7カ月ぶりに前年同月を下回った。また、主な宿泊施設の宿泊者数は、12万8千人で前年同月比25.6%減(前々年同月比41.0%減)となり、7カ月ぶりに前年同月を下回り、いずれも前々年同月を下回っている。



資料: 県観光企画課「月例観光統計」

※観光施設34施設(H24年1月～H26年3月は35施設、H26年4月～H28年12月は34施設、H29年1月～H30年12月は35施設、H31年1月以降34施設対比)



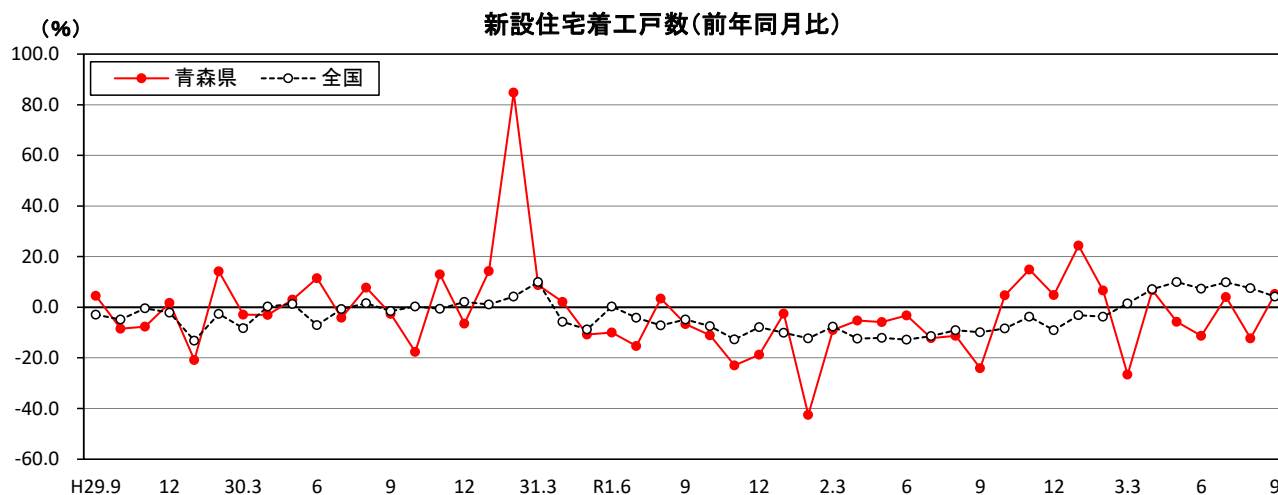
資料: 県観光企画課「月例観光統計」

※宿泊施設 全県75施設(H30年6月まで79施設、H30年7月は78施設、H30年8月～R1年5月は79施設、R1年6月～7月は80施設、R1年9月～R2年3月は78施設、R2年4月～5月は77施設、R2年6月～10月は76施設、R2年11月からは75施設対比)

(2-5) 建設

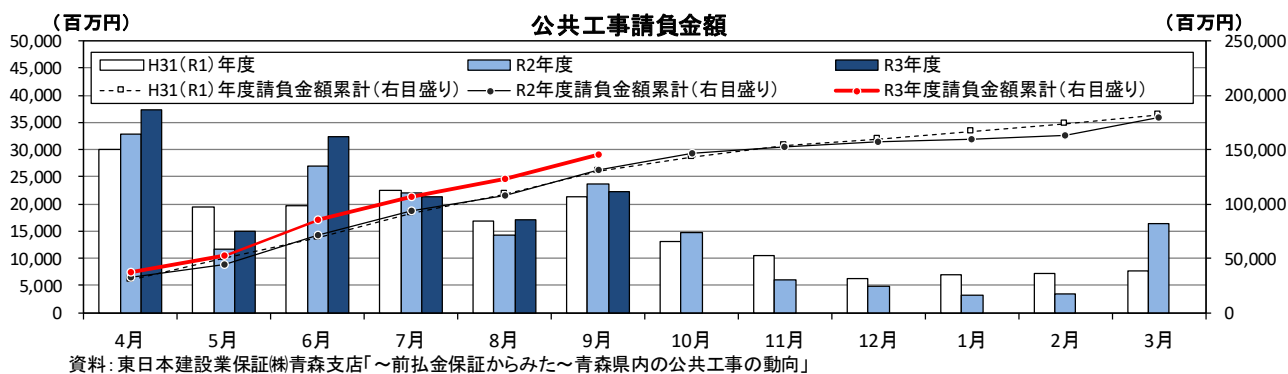
(2-5-1) 住宅建設

令和3年9月の新設住宅着工戸数は504戸で、前年同月比5.2%増となり、2カ月ぶりに前年同月を上回った。主に持家、分譲住宅等が増加したことによる。



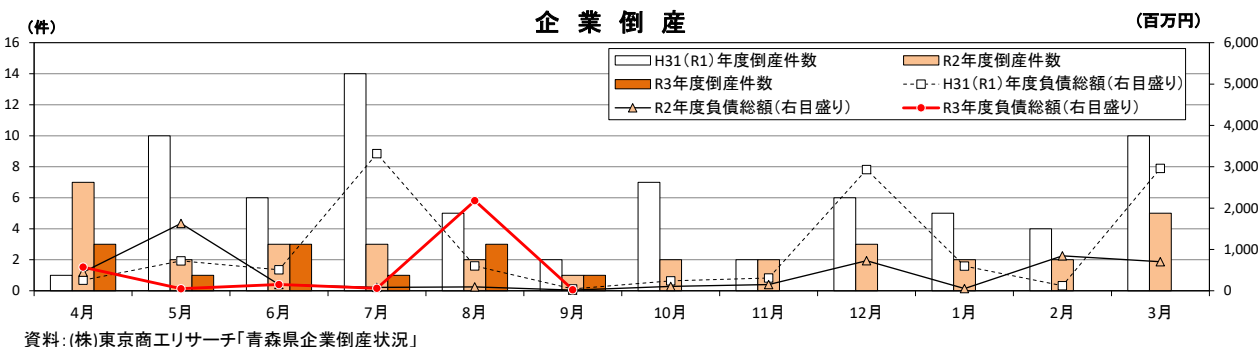
(2-5-2) 公共事業

令和3年9月の公共工事請負金額は223億3,400万円の前年同月比5.6%減となり、市町村の発注工事が減少したことにより2カ月ぶりに前年同月を下回った。また、令和3年9月までの累計金額は1,455億9,700万円の前年同月比10.9%増となった。



(2-6) 企業倒産

令和3年9月の企業倒産は、件数は1件で前年同月と同数となった。負債総額は2,500万円の前年同月比56.3%増となった。



(3) 青森県景気動向指数

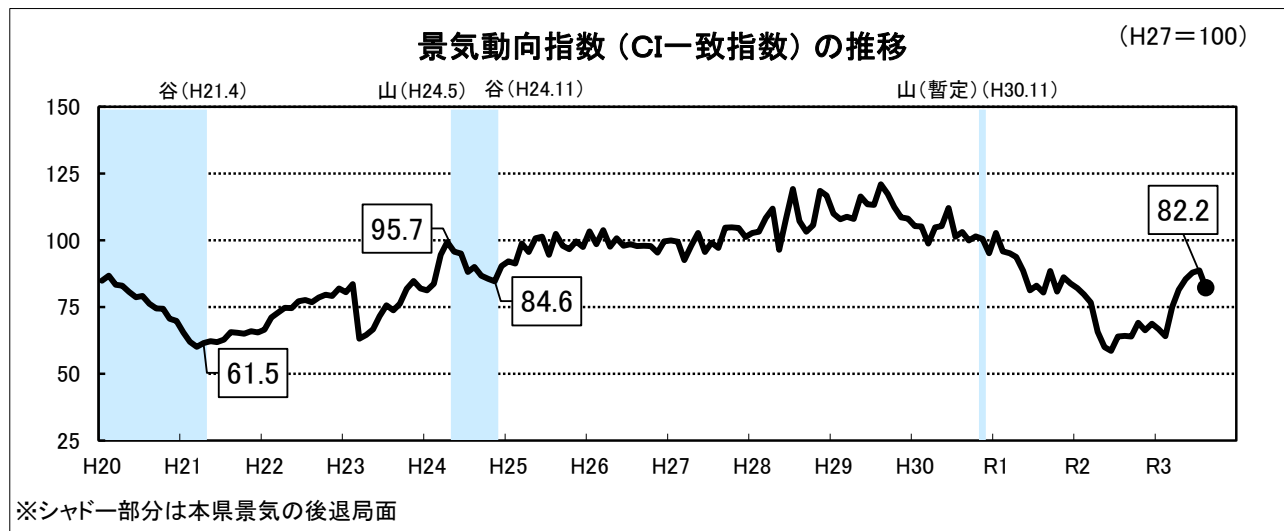
令和3年8月の青森県景気動向指数（C I）は、先行指数 136.1、一致指数 82.2、遅行指数 94.8 となった。

先行指数は、前月を 1.5 ポイント下回り、2 カ月連続で下降した。

一致指数は、前月を 6.5 ポイント下回り、6 カ月ぶりに下降した。

遅行指数は、前月を 3.6 ポイント上回り、3 カ月ぶりに上昇した。

8 月の一致指数は、雇用関連の 1 指標以外が全てマイナスになったことから下降した。



●個別系列の動き（各指標は季節調整等を行い、寄与度を前月と比較しています）

●個別系列の動き（各指標は季節調整等を行い、前年度を前分と比較しています）

寄与度がプラスの指標			寄与度がマイナスの指標		
先行系列					
乗用車新車登録届出台数	2.27	3カ月ぶり	建築着工床面積	-2.47	2カ月連続
生産財生産指数	2.15	2カ月ぶり	日経商品指数（42種）	-1.72	2カ月ぶり
新規求人倍率（全数）	0.93	2カ月ぶり	新設住宅着工床面積	-1.49	2カ月ぶり
			中小企業景況DI	-0.98	2カ月連続
			企業倒産件数（逆サイクル）	-0.21	4カ月連続
一致系列					
有効求人倍率（全数）	1.27	3カ月連続	旅行取扱高	-2.94	3カ月連続
			投資財生産指数	-2.58	3カ月ぶり
			百貨店・スーパー販売額（既存店）	-0.83	2カ月ぶり
			輸入通関実績（八戸港）	-0.63	2カ月連続
			鉱工業生産指数	-0.57	2カ月連続
			所定外労働時間指数（全産業）	-0.16	2カ月ぶり
遅行系列					
りんご消費地市場価格	3.32	2カ月ぶり	常用雇用指数（全産業）	-1.19	2カ月連続
家計消費支出（勤労者世帯：実質）	1.81	3カ月ぶり	県内金融機関貸出残高	-0.73	3カ月連続
公共工事請負金額	0.61	3カ月ぶり	青森市消費者物価指数（総合）	-0.45	2カ月ぶり
有効求職者数（全数）（逆サイクル）	0.25	6カ月連続			
（参考）青森県景気動向指数（D I）					
先行指数	50.0%	（1 2 カ月連続で50%を上回った後50%となった）			
一致指数	57.1%	（1 2 カ月連続で50%を上回った）			
遅行指数	28.6%	（2 カ月連続で50%を下回った）			

(4) 青森県景気ウォッチャー調査（令和3年10月期）

現状判断DIは、業況が底を打ったまま推移しているなどの声がある一方で、ワクチン接種が進んだことによって人出が増加している、一部業種で少しずつ売上が増加しているといった声があり、前期比2.2ポイント上昇の44.5となった。

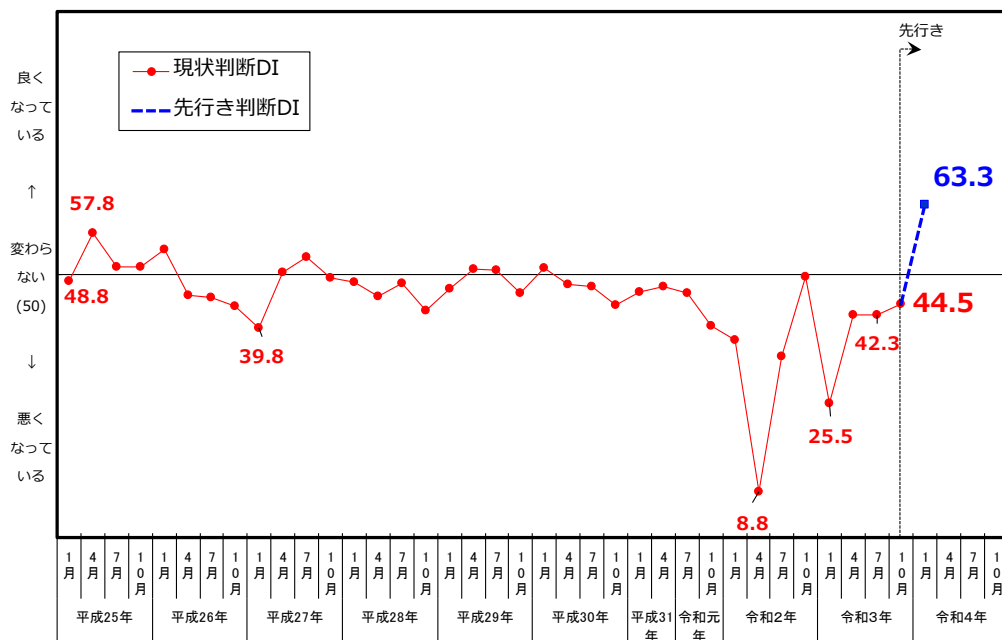
先行き判断DIは、緊急事態宣言の解除やワクチン接種が進んでいることによる人出の増加、今まで控えてきた反動による経済活動の活発化などを挙げる声が多く、現状判断DIと比較して18.8ポイント上昇の63.3となったが、新型コロナウイルス感染症の再拡大による第6波への懸念を挙げる声もあった。

3カ月前と比べた景気の現状判断DIは、景気の横ばいを示す50を15期連続で下回った。

3カ月後の景気の先行き判断DIは、景気の横ばいを示す50を上回った。

（調査期間 令和3年10月1日～10月27日 回答率 100%）

景気現状判断DIの推移・今後の先行き判断DI



● 3カ月前と比べた景気の現状判断

動

前期調査と比べると、「良くなっている」が2.0ポイント上昇、「やや良くなっている」が1.0ポイント低下、「変わらない」が3.0ポイント上昇、「やや悪くなっている」が2.0ポイント低下、「悪くなっている」が2.0ポイント低下となった。全体では44.5となり、前期から2.2ポイント上昇したものの、景気の横ばいを示す50を15期連続で下回った。

向

判断理由では、ワクチン接種が進んだことによって人出が増加していることや、一部業種で少しずつ売上が増加しているといった声がある一方で、8月の感染者急増からの9月の県独自のコロナ感染防止策による売上の減少や、業況が底を打ったまま推移しているなどの声があった。また、新型コロナウイルス感染症への警戒感により、依然として状況が変わらないという声もあった。

地区別では、前期調査と比べて、東青と下北は上昇、津軽と県南は横ばいとなり、いずれも景気の横ばいを示す50を下回っている。

● 3カ月後の景気の先行き判断

動

今期調査の現状判断DIと比べると、「良くなる」が5.0ポイント上昇、「やや良くなる」が37.0ポイント上昇、「変わらない」が25.0ポイント低下、「やや悪くなる」が6.0ポイント低下、「悪くなる」が11.0ポイント低下となった。全体では、今期調査の現状判断DIと比べて18.8ポイント上昇の63.3となり、景気の横ばいを示す50を上回った。

向

判断理由では、緊急事態宣言の解除やワクチン接種が進んでいることに伴う人出の増加、今まで控えてきた反動による経済活動の活発化などを挙げる声がある一方で、新型コロナウイルス感染症の再拡大による第6波への懸念や先行きの不透明感を挙げる声があった。また、ウッドショックによる木材の価格高騰や食品の価格高騰など、物価の上昇による影響を挙げる声もあった。

地区別では、今期調査の現状判断DIと比べて、全地区でポイントが増加した。

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」

○3カ月前と比べた景気の現状判断理由

◎	4月～6月は前年比78.3%であったが、7～9月は98.8%に回復した。(一般小売店＝津軽)
○	都内の緊急事態宣言の解除、コロナワクチンの接種状況などにより人の流れが戻りつつある。(都市型ホテル＝下北)
○	ワクチン接種も2回を終えた人が多くなり、徐々に街中や様々な行動に人の動きが見えてきている。家族での飲食やゴルフ交遊など徐々に増えてきているように見える。(建設＝県南)
□	長く続く出控えによって来店されるお客様の数は増えません。むしろ後をひくのか様子を見ているのか、とにかく静かです。(一般飲食店＝東青)
□	ワクチン接種状況が進むにつれ少しずつ観光客は戻ってきてはいるが、相変わらず例年並みには程遠い状況である。(観光型ホテル・旅館＝東青)
□	感染症に対する警戒感は依然変わらない。(美容院＝津軽)
□	コロナ感染予防の為、旅行関係、飲食店は例年の半分以下なところが殆どようです。夏祭りもなく、お盆の帰省客も全然でした。(ガソリンスタンド＝下北)
□	7～9月の東南アジアのロックダウンで部品の入手が難しい物が出ていて生産調整している。また、日本は緊急事態宣言が終わったが、引きつづき来県社の方は少なくビジネスは停滞ぎみです。(電気機械製造＝県南)
□	新型コロナの緊急事態宣言等の制限は解除されたが、まだワクチン接種が完全に終了しておらず、生活に制約が残っている。(紙・パルプ製造＝県南)
□	最近若干感染者はやや少なくなっているようだが、相変わらず新型コロナ感染を警戒して外出を控えるケースが続いている模様。(人材派遣＝津軽)
△	8月後半の感染症拡大以降、来店客数・売上とも大きく減。(観光名所等＝東青)
△	むつ市内もコロナが発生し、8月には大雨による災害が発生したため。(一般小売店＝下北)
△	9月公共の施設関連が県の要請で閉鎖された影響で、9月の売り上げが悪化している事業所がある。飲食店では、いつの間にか閉店している店舗がちらほら見える。(経営コンサルタント＝津軽)
×	クラスターが発生した影響で部活動など外出する事が無くなり売上は下降している。(コンビニ＝津軽)
×	緊急事態宣言の為に人流がなくなった。(卸売業＝県南)

記号の意味：◎良くなっている、○やや良くなっている、□変わらない、△やや悪くなっている、×悪くなっている

○3カ月後の景気の先行き判断理由

◎	ワクチン接種2回目も終了して行き、緊急事態宣言も解除になり、人の動きが変わる。対策を重ねて行く事で景気は良くなって行くと思う。(卸売業＝東青)
○	良くなって欲しいと思います。イベント広場やホテルの利用客が多くなってくると景気も少し良くなると思う。(コンビニ＝東青)
○	コロナ対策に光が見えてきているからです。ワクチン接種者増加、GO-TO等の経済対策、行動規制緩和、コロナ治療薬など。(衣料専門店＝東青)
○	緊急事態宣言解除による反動が期待できる。(競輪場＝東青)
○	ワクチン接種が大分行き渡って、安心感が経済活動を後押ししている。(美容院＝津軽)
○	全体的に見れば、行動範囲が広がった分良くなると思うが、その反面これまでのように感染拡大すれば元に戻る。(スーパー＝県南)
○	県内コロナ感染者の減少や気温低下に伴い、暖房商品の実績が伸びてきている。又、新型スマホ、格安スマホは好調で巣ごもり生活は継続していると思われる。(家電量販店＝県南)
○	今冬のコロナ・インフルエンザ等の感染拡大次第ではあるが、前年よりも帰省に関する人々が増加すると見込まれているため、流動的に消費が増加するため。(スーパー＝下北)
□	景気が良くなる点が見当たらない。これから爆発的に人の動きが良くなるとは思えないし、個人消費の面からいっても買え控えが続くと思うため。(乗用車販売＝東青)
□	緊急事態宣言等が解除され、人や物の動きが増加するが、今のところ第6波の懸念を払拭する材料が乏しい。(商店街＝県南)
□	コロナのワクチン接種も大体終わりましたが、まだ様子見的な感じで景気が良くなるにはまだ時間がかかると思う。(一般小売店＝下北)
□	コロナ騒動が終えない限り、悪い状況のまま変わらないと思う。(広告・デザイン＝津軽)
□	制限の解除で徐々に人出の動きは出てくると思うが、様子見の状況は続き、そのまま飲食に対しての動きはまだ先になりそう。(飲料品製造＝県南)
△	ガソリンなどの燃料代が上がっており、冬に向けた節約志向は強まると予測されます。(家電量販店＝東青)
△	住宅建設を進めたいと思って、ウッドショックによる木材の高騰や納材の遅れ、他部材の値より大きく、時期を定められない。(住宅建設販売＝津軽)
×	10月から物価は上がるし、野菜(特に葉物)は高いし、相変わらず人出はないし、続けて行こうという気力がなくなる。(一般飲食店＝下北)

記号の意味：◎良くなる、○やや良くなる、□変わらない、△やや悪くなる、×悪くなる

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」